

資料

過疎地域における重度身体障害者施設整備の課題

刈谷哲博¹⁾ 川上 剛²⁾

旭川荘 竜ノ口寮¹⁾

旭川荘 事務局²⁾

(平成4年10月31日受理)

The Issues of Institution for Severely Physically Handicapped in the Sparsely Area

Tetsuhiro KARIYA¹⁾ and Tsuyoshi KAWAKAMI²⁾

Asahigawaso Tatsunokuchiryō¹⁾

Okayama, 703, Japan

Asahigawaso Jimukyoku²⁾

Okayama, 703, Japan

(Accepted Oct. 31, 1992)

Key words : sparsely area, severely physically handicapped, function of institution

はじめに

1993年度には全国の市町村および都道府県の老人保健福祉計画が策定される運びとなっている。その計画には社会福祉関係8法改正を受けて、在宅福祉と施設福祉のサービスが一元的に市町村で提供されるものとなるはずである。さらに、老人に限らず身体障害者をはじめ各種の障害を持つ人々に関する福祉計画も同様に住民に最も身近な市町村において一元的なサービスが提供出来るように計画が策定されて然るべきであろう。その際、各種の在宅サービスをすすめる上でも、施設入所ニーズにこたえるためにも専門機能を持つ施設が身近に必要である。然し、人口の少ない過疎地域にあって、しかも重度身体障害者の場合には対象者の数について慎重な検討が必要である。ここでは、岡山県川上

郡川上町の現状から施設整備の条件を検討する。

1. 川上町の状況

川上町の地形は、岡山県中西部の高原地帯に連なる隆起準平原にある。町域は東西14.81キロメートル、南北10.5キロメートルであり、面積は86.81平方キロメートルである。

1990年度の世帯数は1,450世帯で、1955年度と比べると、76.6%に減少している。人口は1990年度4,848人であり、1955年度と比べると46.4%にまで減少している。したがってその人口密度も1990年度は55.8となっており、1955年度と比較して46.4%にまで減少しているところである。

2. 川上町の既存の地域計画と重度身体障害者福祉

川上町では過疎地域特有の地域計画や町独自の福祉構想や専門団体との共同研究などを通して既にいくつかの検討経過を持っている。

1) 川上町振興計画¹⁾では公共施設の利用に配慮をすべきことがあげられている。2) 川上町過疎地域活性化計画書²⁾では身体障害者療護施設整備に向けて用地取得計画を策定している。3) 精神薄弱者の地域生活のためのエリア構築に関する研究³⁾では精神薄弱者の施設整備と併せてやはり身体障害者療護施設整備の必要性をあげている。4) 川上町福祉村構想計画⁴⁾では社会福祉法人による障害者福祉施設の整備を行なう方針を明示している。

5. 川上町における心身障害者等の人数

(表1)に示したように、川上町の身体障害者数は年々増加している。人口の著しい減少の中で、障害者数が増加しており、1992年度に312名を数えている。また(表2)に示したように、重度の身体障害者として障害等級1級の人47名、2級の人52名で合わせて99名である。

この中で身体障害者療護施設の対象となる18歳以上で64歳までの障害等級1級および2級の人27名(1級12名、2級15名)である。

(表3)は川上町における対人口出現率から近隣の市と町の障害者数を推計したものである

表1 川上町の身体障害者数年度別推移

| 年 度 | 人 数 |
|------|-----|
| 1981 | 275 |
| 1984 | 267 |
| 1987 | 296 |
| 1990 | 299 |
| 1991 | 307 |
| 1992 | 312 |

表2 川上町 身体障害者 等級別, 年齢別分類

| 年 令 | 1 級 | 2 級 | 3 級 | 4 級 | 5 級 | 6 級 | 計 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 18歳 未満 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 18歳 ~ 64歳 | 12 | 15 | 11 | 20 | 23 | 17 | 98 |
| 65歳 以上 | 33 | 37 | 29 | 37 | 33 | 42 | 211 |
| 計 | 47 | 52 | 41 | 57 | 56 | 59 | 312 |

が、重度身体障害者数は1市5町で267名、またその中で肢体不自由者と重複障害者を求めると1市5町で165名となっている。

表3 在宅身体障害者 推定数 (18歳~64歳)

| 市 町 | 人 口 | 肢体不自由 重複障害 (1・2級) 人口比 323:1 | 重度身体障 害(1・2 級) 人口比 202:1 |
|-----|--------|---|--------------------------------------|
| 川上町 | 4,857 | 15 | 24 |
| 成羽町 | 6,678 | 20 | 33 |
| 備中町 | 3,684 | 11 | 18 |
| 芳井町 | 7,062 | 21 | 34 |
| 美星町 | 6,523 | 20 | 32 |
| 高梁市 | 25,492 | 78 | 126 |
| 計 | 54,296 | 165 | 267 |

考 察

1. 川上町の構想の問題点

先述のように既存の検討結果では、川上町は、身体障害者療護施設の設置を望んでいる。その理由としてはつぎのような事があげられよう。

1) 身体障害者療護施設の持つ専門職員は種類も多く、人数も他の身体障害者施設より多い。そのため、入所処遇の他に通所、訪問、相談、など在宅者のためのメニューもふくめて一元的サービスの核となるものと期待できる。その施設機能は、(1)入所者には医療・看護・リハビリテーション・介護・ケースマネジメント・グループワークの専門サービスを、(2)在宅者にはショートステイ・デイケア・自立生活の支援・

訪問サービス・相談の他に、在宅者支援センターの活動もできる。(3)地域住民とはふれあいの町づくり事業・地域文化レクリエーション活動・障害者および高齢者雇用など相当な機能をもっている。

2) 重度の障害者の処遇ができ、しかも重介護を要する老人等の介護についても老人施設と相互に補完しあえる機能を持てる。

3) 長年月の入所からショートステイに至る自在な利用が可能である。身体障害者の施設の中で在所期間について定めのない施設種である。

身近に老人や精神薄弱者の専門施設と併せて身体障害者の専門機関があり、それぞれ連携しつつ入所と在宅のサービスをすすめるこの構想はうなづけるが、その実現のためには一定以上の入所者ニーズがあるかどうかである。

2. 川上町の身体障害者数と施設入所ニーズ

身体障害者312名の中で18歳から64歳の1, 2級の障害者24名、さらにその中で施設入所ニーズの高い肢体不自由および重複障害者が15名。これでは最低定員50名の施設ニーズはない。ただし、近隣の1市5町で推計すると1, 2級の障害者267名、その中で肢体不自由と重複障害者に絞っても165名と推定される。近い将来には、この人たちの入所ニーズにこたえる施設の必要性のたかまることは予想できよう。今後、1市町村の単位を越えての調査が必要である。

3. 総合計画の展開

川上町に見るように、老人福祉を中心に精神

薄弱者、身体障害者を含む総合的なシステムが検討されている。それぞれの対象者が身近な施設を利用出来るよう、施設種相互に相乗りした利用システムをめざすべきであろう。

4. 施設の最低定員について

既に、老人施設や精神薄弱施設は小規模施設づくりがすすんでいるが、身体障害者療護施設は併設のみ30人施設が許可されている。町村単位の機能的な施設サービスができるように、最低50人定員の基準を見直し、30人定員の施設づくりに道を開いてもよいと考える。

結 論

過疎地域における重度身体障害者の一元的福祉システムを整備する上では、施設整備に関しては、1市町村では単位が小さいために対象者数が限られる。複数の市町村の単位でニーズを満たすエリアを求めて整備することが考えられ、川上町の場合は近隣の1市5町村の単位で身体障害者療護施設の設置可能性が予測された。

施設定員の最低数がさらに下がればより小地域での施設サービスと併せて施設機能を活用した専門レベルの高い在宅サービスが可能となろう。

身体障害者療護施設の機能は、施設、在宅、地域社会いずれに対しても広範なサービス機能が期待されるが、老人関係、精神薄弱者関係の施設とのネットワークのなかで最もその機能が生きるものと考えられる。

文 献

- 1) 川上町(1988)川上町振興計画。川上町振興計画書, 川上町企画振興室, 川上町, pp 82.
- 2) 川上町(1990)川上町過疎地域活性化計画。川上町過疎地域活性化計画書, 川上町役場, 川上町, pp 68-69.
- 3) 紫田武男, 赤木潤二, 安達正信, 大塚設夫, 大月 勲, 下山定夫, 徳山雅之, 西井久泰, 米沢正治, 渡辺敏, 藤井昭平(1990)町および周辺地区を包含する福祉エリアモデル研究—岡山県・川上町地区一, 財団法人日本精神薄弱者愛護協会, 精神薄弱者の地域生活のためのエリア構築に関する研究, 財団法人日本精神薄弱者愛護協会, 東京都, pp 174-191.
- 4) 川上町(1989)川上町福祉村構想計画。川上町祉村構想計画書, 川上町役場, 川上町, pp 32.